

時事解説

令和6年度植物防疫研究課題の概要

農林水産省 農林水産技術会議事務局
研究開発官(基礎・基盤, 環境)室

はじめに

農林水産省では、持続可能な食料システムの構築に向け、食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」を令和3年5月に策定した。また、令和4年4月には「環境と調和のとれた食料システムの確立のための環境負荷低減事業活動の促進等に関する法律（みどりの食料システム法）」が成立し、5月に公布、7月に施行された。本法律は、環境と調和のとれた食料システムの確立に関する基本理念等を定めるとともに、農林漁業に由来する環境への負荷の低減を図るために行う事業活動等に関する計画の認定制度を設けることにより、農林漁業及び食品産業の持続的な発展、環境への負荷の少ない健全な経済の発展等を図るものである。みどりの食料システム戦略では、2050年までに目指す姿として農林水産業の環境に関するさまざまな数値目標を設定しており、植物防疫に関連する目標として、化学農薬の使用量（リスク換算）の50%低減や有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大することが掲げられている。これら目標の達成には現在の技術の普及だけでなく、イノベーション等による新たな病虫害防除技術の開発が必要とされている。

このような情勢の中で、令和6年度は下記に紹介する事業において植物防疫に関連する研究を実施する。以下に、まず令和6年度の農林水産研究予算の概要を述べ、次に植物防疫に関連する主なプロジェクト研究について紹介する。

I 農林水産技術会議事務局が関係する令和6年度予算及び令和5年度補正予算の概要

以下に、主な研究項目と事業名を挙げる。事業名だけでは内容が分かりにくい場合、主な研究・事業内容を記す。

Government Research Projects on Crop Protection in 2024.

(キーワード：令和6年度予算要求, 植物防疫研究課題, 農林水産技術会議事務局)

1 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業（令和6年度予算額：30億1千6百万円）

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立の実現に向け、スマート農業における優れた技術の横展開のための導入実証等を推進するとともに、品種開発の加速化、川上から川下までが参画した現場のニーズに対応した研究開発等、みどりの食料システム戦略実現に資する国主導で実施すべき重要な分野の研究開発等を推進する。

1-1 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうちスマート農業の総合推進対策（令和6年度予算額：12億1千2百万円、令和5年度補正予算額：38億円）

令和7年までに農業の担い手のほぼ全てがデータを活用した農業を実践することを目標とし、スマート農業の社会実装を加速するため、必要な技術開発・実証やスマート農業普及のための環境整備等について総合的に取り組む。

1-2 みどりの食料システム戦略実現技術開発・実証事業のうち農林水産研究の推進（令和6年度予算額：18億4百万円）

重要課題に対する技術を開発し、令和10年度までに農林漁業者等がその開発された技術を実践することを目標とし、国主導で実施すべき重要な研究分野について、戦略的な研究開発を推進する。また、農林水産業・食品産業にイノベーションを創出することを目標とし、最新の研究開発動向の調査やアウトリーチ活動の展開等の環境整備を行う。

(1) みどりの品種開発研究

農林水産技術会議事務局では、「みどりの食料システム戦略」の目標達成に資する品種育成とその迅速化を図るスマート育種基盤の構築に向けて、その手順と到達目標を整理した「みどりの品種育成方針」を策定した（令和4年12月）。本方針を踏まえ、主要穀物、野菜、果樹などの「みどりの食料システム戦略」の実現に貢献する新品種をゲノム情報、AI、遺伝資源等をフル活用して高速・低コストで育成できる育種基盤の開発を推進する